

映像教材活用事例

難聴通級指導教室における活用

千葉県公立小学校

難聴通級指導教室担当 金井あかね

千葉市の難聴通級指導教室について

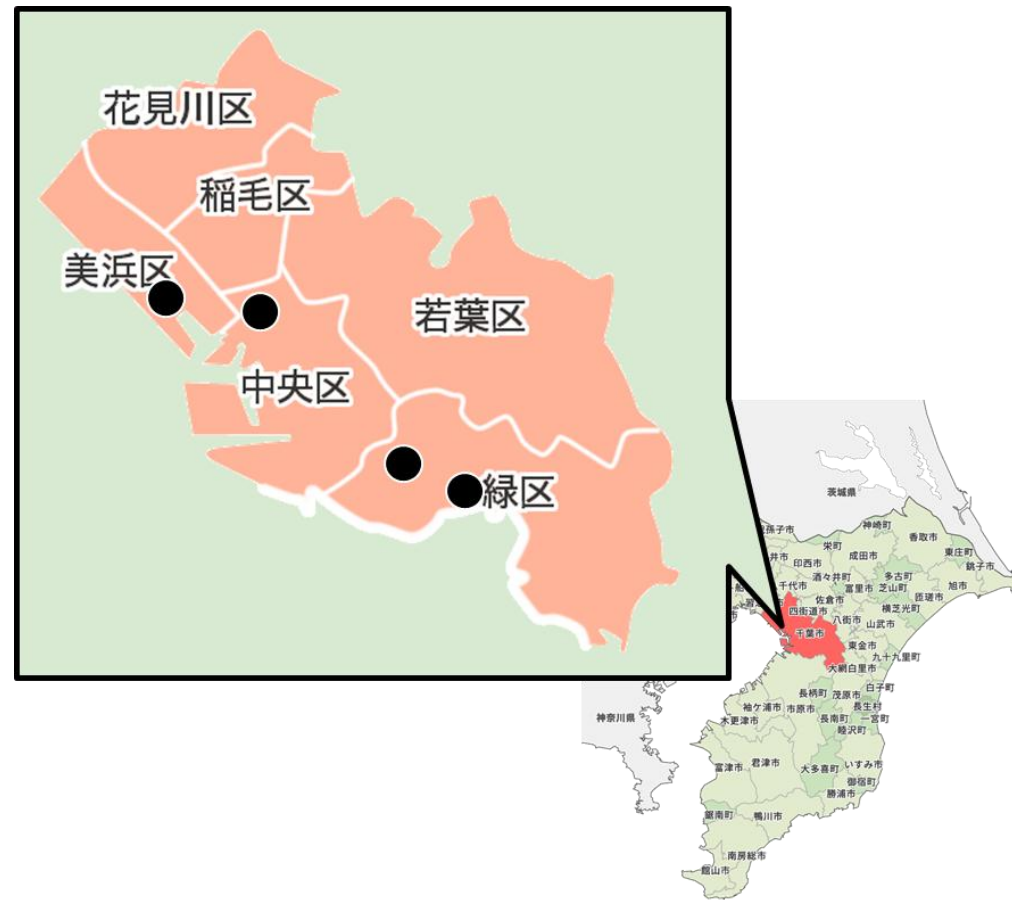
設置校(4校)

- ・院内小
- ・誉田東小
- ・高洲三小
- ・扇田小

指導体制

- ・担当者:市内5名
- ・形態:原則週1回 45分

(他校生は朝通級 または 午後通級)



通級児童の現状(R8.5.1現在)

在籍児童数

41名

対象となる児童

- ☒ 通常学級に在籍している
- ☒ きこえにくさがある
- ☒ 就学支援委員会で認められている

難聴通級指導教室でめざすこと

自分のきこえにくさを伝えながら周囲と円滑な人間関係を築くための支援・指導を行う。

気付く

■ 自分のきこえにくさを整理し
気付く。

考える

■ 主体的にきこえやすくする方法を
考える。

相談する

■ 周りに相談
する。

手に入れる

■ きこえやすい環境を
手に入れる。

自分の「トリセツ」を作ろう

- ✓ 自分のきこえ方を理解する
- ✓ 相手に「こうしてほしい」を伝える練習

小学校時代は、
自分で環境を作るための準備期間



周囲への啓発：難聴理解授業

根拠：自立活動 「健康の保持」

(4) 障害の特性理解と生活環境の調整に関すること

- ✓ 自分の特性を正しく理解する
- ✓ 周囲に主体的に働きかける
- ✓ 生活しやすい環境を作る



事例① A君の場合

現状(困っていること)

- 「パラリンピック」と言われることに違和感
- 特別扱いされたくない

理想(こうなりたい)

- 補聴器は「眼鏡」と同じだと知ってほしい
- 自然に接してほしい

事例① 授業での工夫

1

クイズ形式で導入

補聴器やデフリンピックについて楽しく学ぶ

2

補聴器体験

クラスメイトが実際に音を聞いてみる

3

眼鏡に例えた説明

「目が悪い人が眼鏡をかけるのと同じ」

A君からクラスみんなへ

僕にとっての補聴器は眼鏡と同じようなものだと考えています。 たまたま補聴器は珍しいので、眼鏡よりも特別なものだと思われがちです。今、眼鏡をかけている人がちょっと見えないのと同じように、僕はちょっときこえないだけです。クイズの問題にもあったように、**規定よりも僕は耳が良かったためデフリンピックには出られません。**

たまたまきこえにくくて情報をきき漏らした時には「教えてください」と自分から頼むようにします。その時は是非教えてください。**皆さんに気を遣ってもらったり、特別扱いをしてもらうようなことが申し訳なくていやだなと思っているので、**しっかりときく努力をしていこうと思っています。これからもよろしくお願いします。



事例② B君の場合

現状(困っていること)

- 中学校生活への不安がある
- きこえにくさを知っておいてほしいが、言い出しにくい

理想(こうなりたい)

- 友達に理解してもらい、中学校でもサポートし合いたい

事例② 授業での工夫

1

映像教材

感音難聴の説明
後ろや遠くや複数の発言が
聞き取りにくい



2

補聴器体験

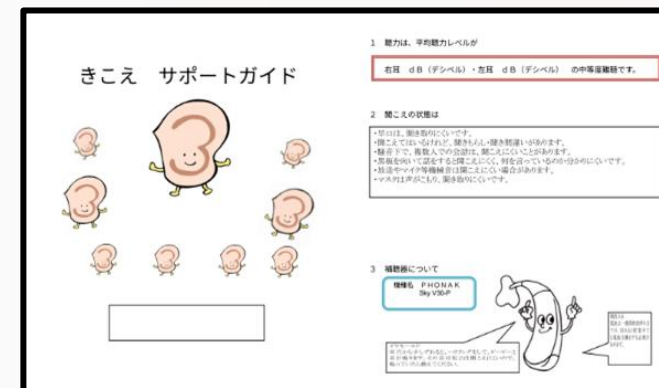
クラスメイトが実際に音を
聞いてみる



3

パンフレット

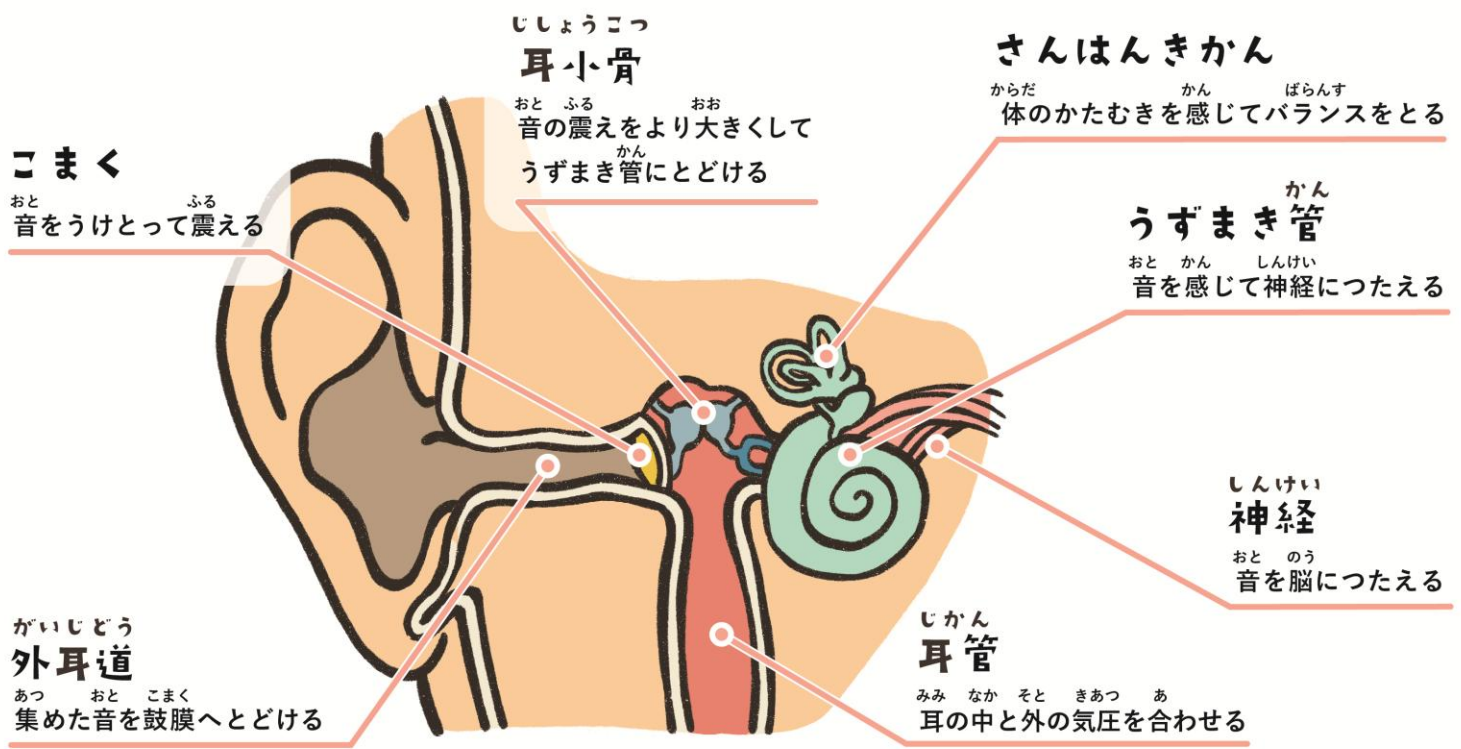
中学校の先生や部活の
先輩に配る予定のもの



従来の図のイメージ

しょうめん
正面から
みた

みみ 耳のしくみ



事例② B君が、映像教材をもとに話したこと

僕は**感音難聴**。この3つの場面の中では2つめの**授業中に後ろの友達や遠くの友達や複数の友達と話するとき**にききとれなくて困ることがよくある。

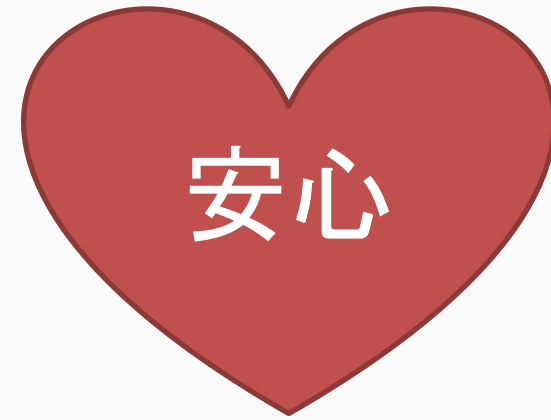
複数の友達と話している場面では、**誰が話しているかはわかるけど、何て言ってるかわからない**ことがある。

大丈夫そうなときは友達と廊下に出て、静かな環境で聞き取ることがある。



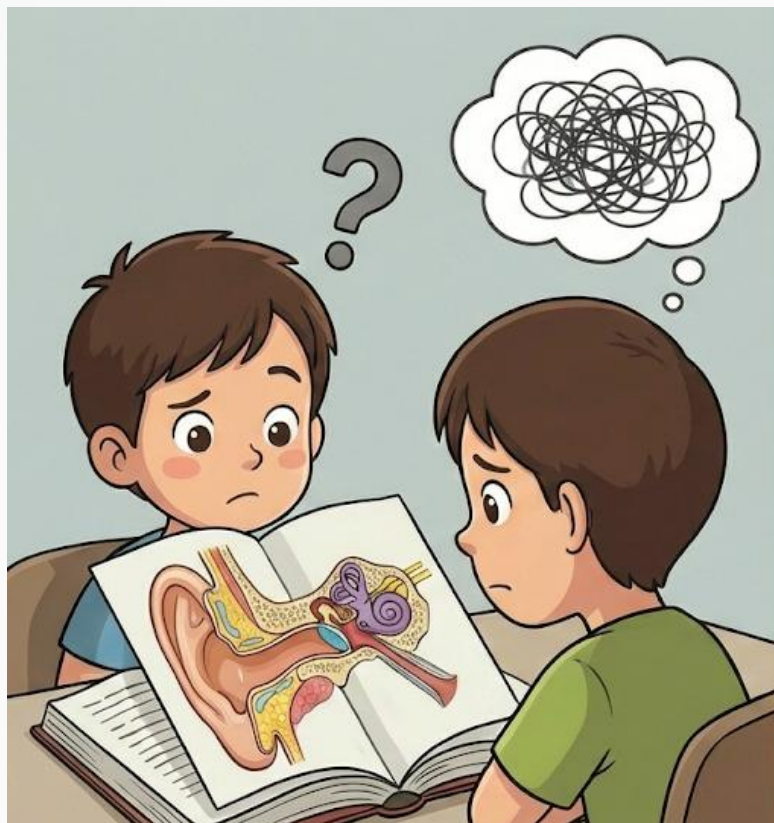
事例② B君への感想

「補聴器をつけている人が、どれだけききとりにくいのか**大変さがわかった**。あと、周りがうるさいと、（補聴器をつけている人に）伝えたいことが伝えられないから、**そういうのをちゃんと気にしようと思いました**。」



映像教材のメリット

従来の図だと
わかりづらい



映像教材だと
子供も理解できる

